「人間関係づくりの演習と道徳⑦」
～2年「あいさつって なあに」*から～

松田 憲子

1　あいさつに親しみ，意欲づけをする

今回は，低学年であいさつに親しみ，進んであいさつをしようという意欲づけをする道徳授業を紹介する。演習を取り入れ，あいさつのキャッチボールを体感させて，明るく楽しい授業となった。

2　授業構成の工夫

１年生１学期の実践のため，以下の３段階で，あいさつの心地よさを体感できるように構成した。

①　資料から「あいさつの力」に気づく

まず資料*をもとに，あいさつによって変化する主人公の気持ちから，あいさつの力に気づかせた。資料のさし絵を拡大し，黒板に提示した。

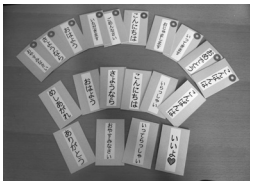
「あいさつすると，自分も元気になるし，みんなも気持ちがいいね」「『ありがとう』って言われると，すごく元気になるよ」「あいさつすると友だちも増えるんだ」等，場面ごとの主人公や周囲の人々の気持ちの変化を考えた後に，主人公の「あいさつっていいね。あいさつって……」に続く言葉を発表し合った。「うれしいね」「元気になるね」「気持ちがいいよね」……。すると発表を聞いていた子が「あいさつってすごいね。すごい力がいっぱいだ」とつぶやいた。その言葉に学級のみんながうなずき，「そんなあいさつをみんなもしてみよう」と次の段階に進んだ。

②　どんなあいさつがあるのかな

「他にはどんなあいさつがあるかな」と問うと，「さようなら」「いただきます」「いってきます」など次々あがった。それらを整理し，あいさつには，「おはよう」のように互いに同じあいさつをするものと，「いってきます」「いってらっしゃい」のように違うあいさつをするものがあることに気づいた。カードに書いたあいさつを見て，「毎日たくさんのあいさつをしてるんだね」と改めて驚いていた。

③　「あいさつカルタ」であいさつしよう

「みんなもあいさつパワーをこめて，あいさつしてみましょう」と，各グループにカルタを配った。



カルタは読み札・取り札が各10枚。それぞれにあいさつが書いてある。読み札と取り札が同じものも，違うものも取り交ぜた。中には「ごめんなさい」という読み札も。「『ごめんなさい』って言われたら，なんて答える？」と問うと，「いいよ！」と一斉に言う子どもたち。「相手が心をこめて『ごめんなさい』って言ったら，そう答えてあげてね」とカルタを始めた。

ルールは，読み手が読んだカルタに対するあいさつを取り札から選んで取る。その際，必ず元気よくあいさつをする約束である。

各グループから元気のよいあいさつが教室中に聞こえてきた。だんだんテンポが速くなり，「おはよう」「おはよう」「ごめんね」「いいよ」……ぽんぽんと飛び交うあいさつ。クラス中のみんなが元気にあいさつを交わすことができた。カルタ取りを終えた後，「さっき，じゅん君（主人公）は『あいさつっていいな』って言ってたけど，みんなはどう？」と尋ねた。「これからあいさつをいっぱいしたい」「もっと他のあいさつもしたい」と，意欲的な発言が続いた。いつもはおとなしい子の「恥ずかしくなくなった」という感想には，私もうれしくなった。

3　「心のキャッチボール」を体感する

あいさつはキャッチボール。すてきな返し方で笑顔が広がる。あいさつは笑顔が広がる心のキャッチボールだと子どもたちが気づいた実践であった。この「あいさつカルタ」を活用し，「神経衰弱」などをしながら楽しくあいさつの仕方を学ばせるのもよい。

＊『ゆたかな心』（光文書院）掲載資料

参考文献：秋山里和『「あいさつかるた」で考える挨拶の大切さ』（『道徳教育』2013年5月号／明治図書）